

紀伊水道外域における近年のゴマサバ漁の増加と漁場水温との関係

水産試験場

研究のねらい

近年、和歌山県の沿岸漁業では、ゴマサバの漁獲量が増加しています。ゴマサバ(図1)は近縁のマサバに比べて南方性の生態的特性をもつと考えられており、近年の漁場水温の上昇が漁獲量の増加に関係していると推測されます。そこで、和歌山県においてサバ類の漁獲が最も多い中型2そうまき網のゴマサバ漁獲量と、調査船「きのくに」で観測された漁場水温(紀伊水道外域)との関係を調べました。

研究の成果

- ①ゴマサバの漁獲量は1990年代後半より増加していました(図2)。
- ②春～夏季の水温が高いほど、その年のゴマサバの漁獲量が増加する傾向が見られ、特に4～9月の平均水温との間に最も強い関連性が認められました($R^2=0.562$)。また、4～9月の平均水温は近年上昇しており(図3)、高水温が漁獲量の増加に影響しているようです。
- ③ゴマサバの漁獲はもともと秋～冬季がメインだったのですが、1990年代後半からは4～9月の漁獲量が増加していました(図4)。
- ④太平洋沿岸域全体で見ると、ゴマサバの資源そのものは大きく増加していないことが分かっています。したがって、和歌山県のゴマサバ漁獲量の増加は、紀伊水道外域の4～9月の水温が上昇したことにより、この海域に多くのゴマサバが入り込んできたことが要因の一つと考えられます。

成果の活用面・留意点

漁獲量の増減の要因を解明することは漁況の予測につながります。今後は、水温を上下させる要因についても解明する必要があります。また、ゴマサバの漁獲が増加しているとは言え、小型魚を獲りすぎると将来的に資源の減少を招く危険があり注意が必要です。

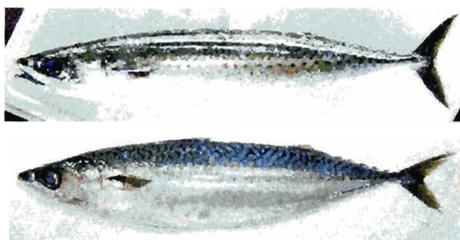


図1 ゴマサバ(上)とマサバ(下)

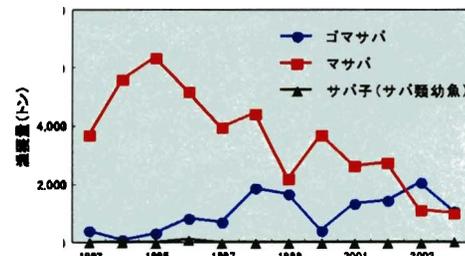


図2 サバ類総柄別漁獲量の推移(紀伊水道外域2そうまき網)

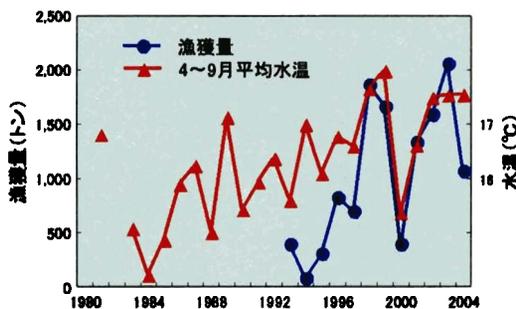


図3 2そうまき網ゴマサバ漁獲量と紀伊水道外域の4～9月の平均水温の関係(水温は切目沖3定点、水深100m層の平均)

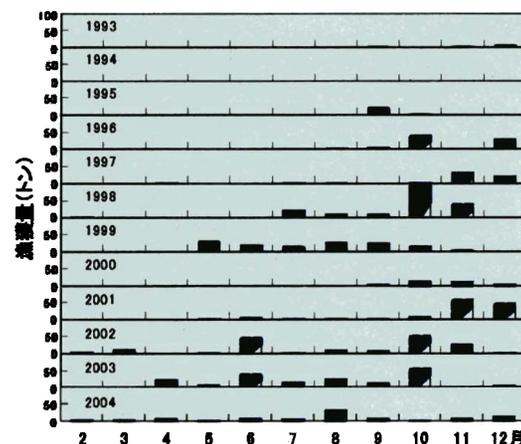


図4 田辺漁協2そうまき網によるゴマサバ月別漁獲量の推移(1統あたり平均)

(問い合わせ先: 0735-62-0940)